無痛分娩教室ver1

JCHO大阪病院産婦人科

無痛分娩とは

- 陣痛の痛みを**緩和する**方法
- 鎮痛効果が高く児への影響も少ない**硬膜外麻酔方法**を用いる
- メリットもありますが、デメリットやトラブルもあります
- 本日の話をよく聞いて理解していただき、分娩方法を選択してください

無痛分娩の適応

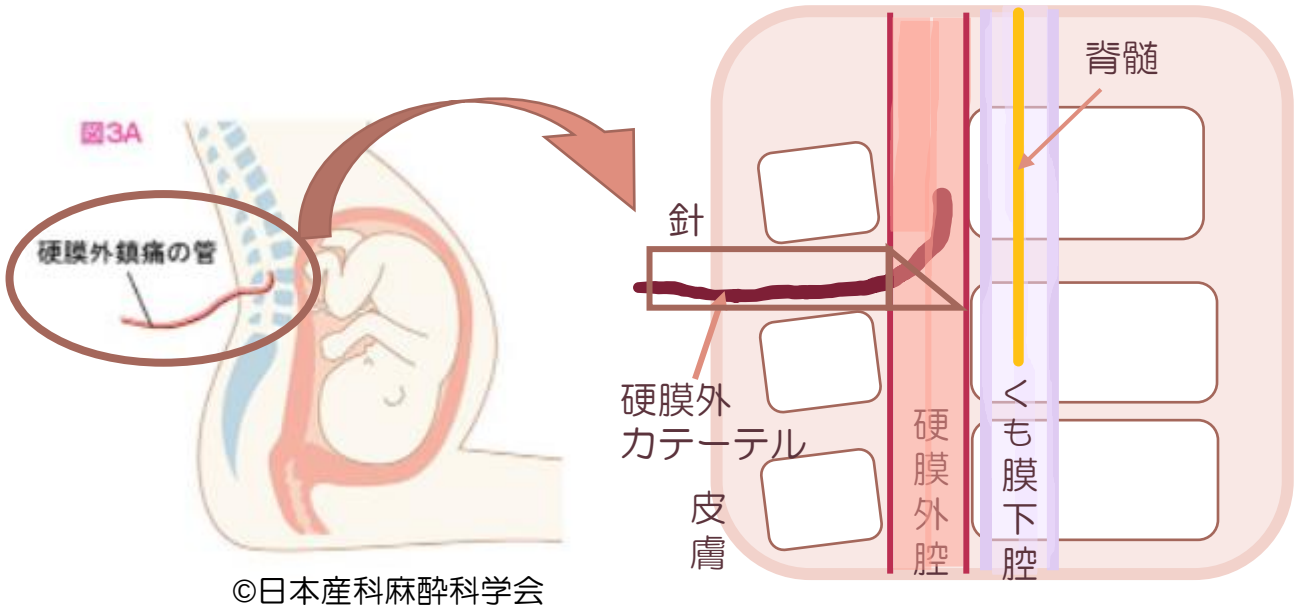
- 妊婦の希望
- 医学的適応；精神疾患
  てんかん合併
  循環器疾患
  脳血管疾患

無痛分娩ができない時

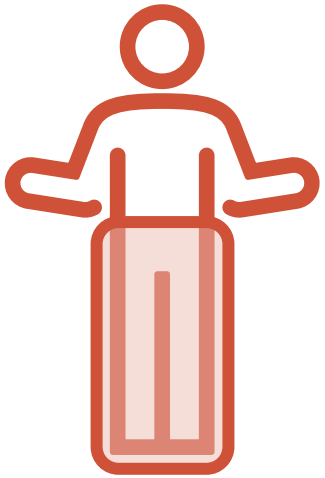
- 妊婦の拒否（協力が得られない場合も含む）
- 医学的禁忌；感染 (穿刺部位感染，敗血症)
  出血傾向 (血小板減少，凝固異常，抗凝固療法中)
  心血管系 (大動脈弁狭窄症，閉塞性肥大型心筋症)
  中枢神経系 (多発性硬化症)
  循環動態不安定 (高度の脱水，出血)
  局所麻酔薬アレルギー
- 硬膜外カテーテルが留置できない場合

硬膜外無痛分娩とは

- 硬膜外麻酔では、**背中から硬膜外腔に細い管（カテーテル）を挿入**し、そこから麻酔薬を挿入します。
- お臍から足先まで（下半身）に効き、痛みを和らげます



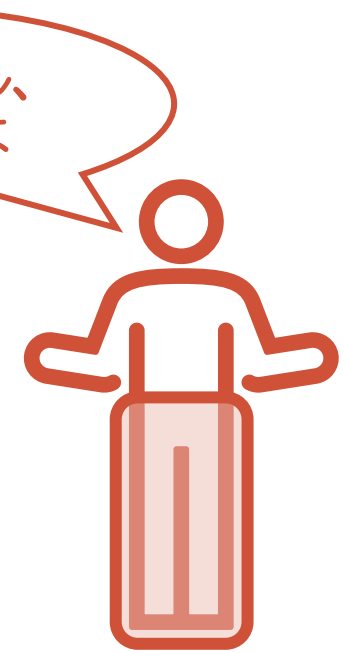
©日本産科麻酔科学会



硬膜外麻酔の効果の範囲

硬膜外無痛分娩とは

- 麻酔薬が入ると、15分ぐらいで陣痛の痛みが楽になる
  - 下半身の感覚は鈍くなる
  - 足が動かしにくくなる
- 上半身には麻酔はかかりません
  - 手や上半身は通常通り
  - 意識もある
- 投与を中止すると、30分～1時間半ほどで切れてきます

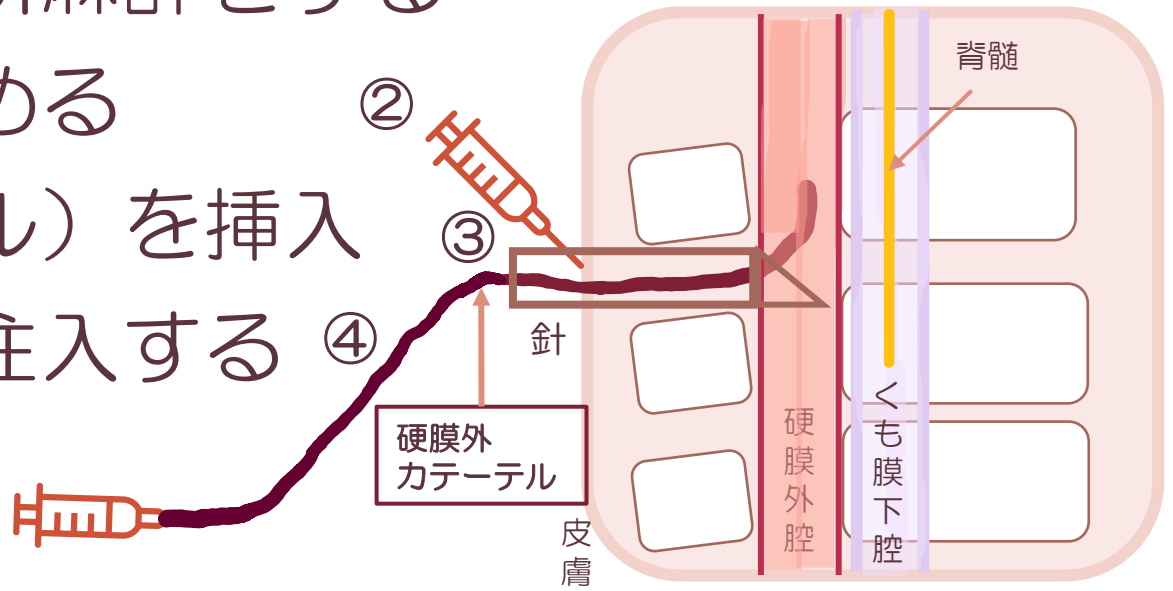


硬膜外麻酔の効果の範囲

無痛分娩の方法
～カテーテル留置～

①分娩台の上で横になり、背中を丸くする
②背中を消毒し、穿刺部位に局所麻酔をする
③針を刺し、硬膜外腔に針を進める
④細いビニールの管（カテーテル）を挿入
⑤そのカテーテルから麻酔薬を注入する

①

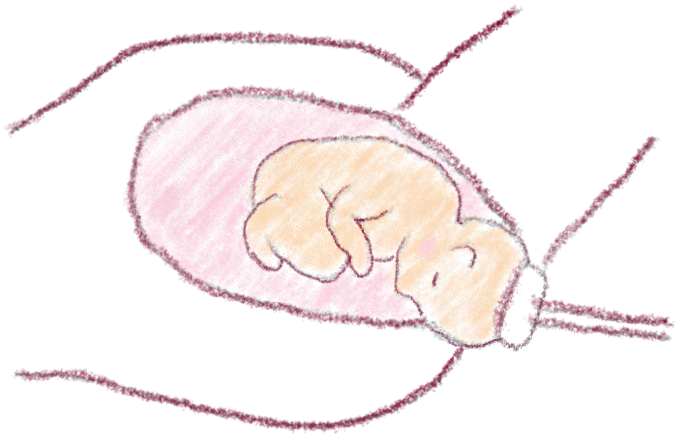


無痛分娩のメリット

- **陣痛の痛みが和らぐ**
- 落ち着いた出産
- 縫合時の痛みが軽くなる
- 分娩後の回復が早くなる

分娩への影響

- 分娩の遷延（子宮口全開大～分娩）
- 器械分娩（吸引分娩など）の増加
- 帝王切開率は変わらない



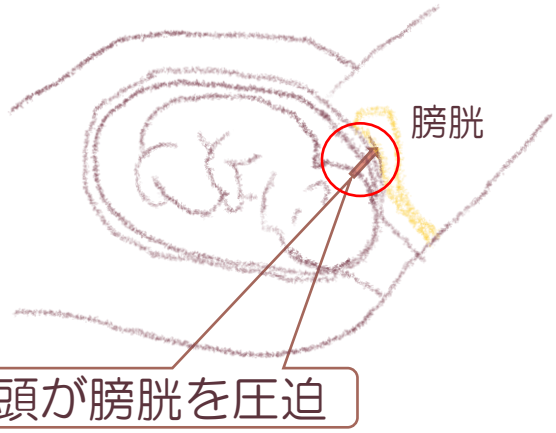
＜吸引分娩＞

赤ちゃんへの影響

- 麻酔薬が赤ちゃんに移行する量は非常に少なく影響はほぼありません
- お母さんの血圧が低下した場合は、胎盤からの血流が減少し赤ちゃんへ影響する可能性があります
  麻酔時には、お母さんの血圧が下がらないように点滴や薬剤を投与して管理します

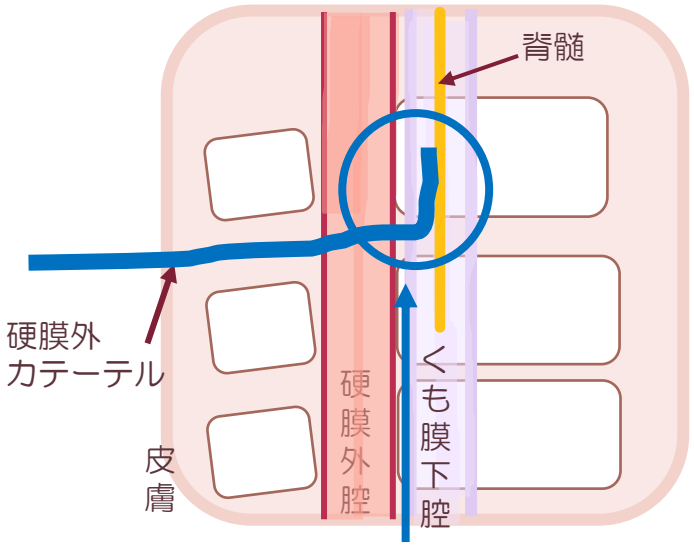
無痛分娩のデメリット・トラブル

- 発熱
- 片側効き、まだら効き
- 効果不十分
- 腰痛・背部痛
- 血圧低下
- 頭痛
- 神経障害
- 排尿障害

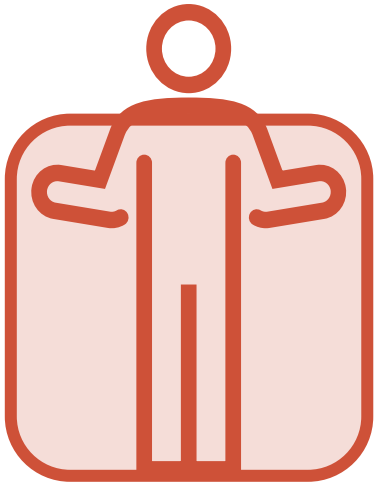


無痛分娩のデメリット・トラブル

全脊椎麻酔（0.02~0.04%）

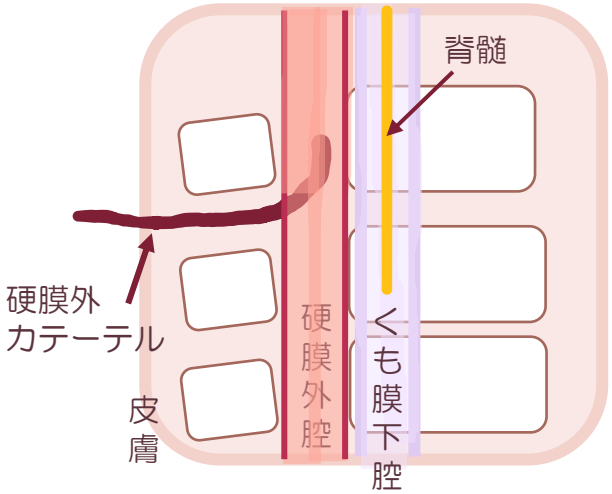


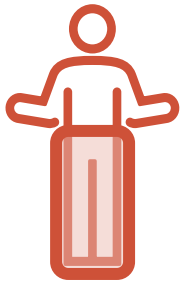
くも膜下腔にチューブが
入っている



上半身にまで麻酔範囲が及ぶ

＜通常の硬膜外麻酔＞





硬膜外麻酔の
効果の範囲

足が動かない、手の痺れ、
呼吸困難感、徐脈、低血圧、
呼吸停止、意識消失
→ 早期発見・早期処置

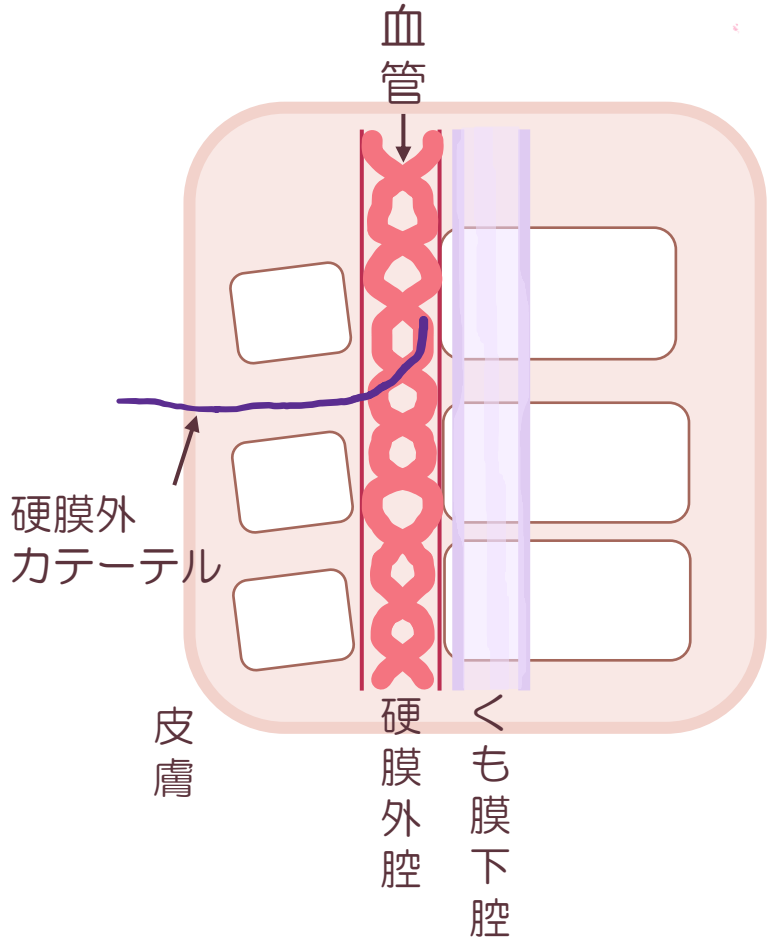
無痛分娩のデメリット・トラブル

局所麻酔薬中毒（0.01~0.02%）

カテーテルの血管内迷入

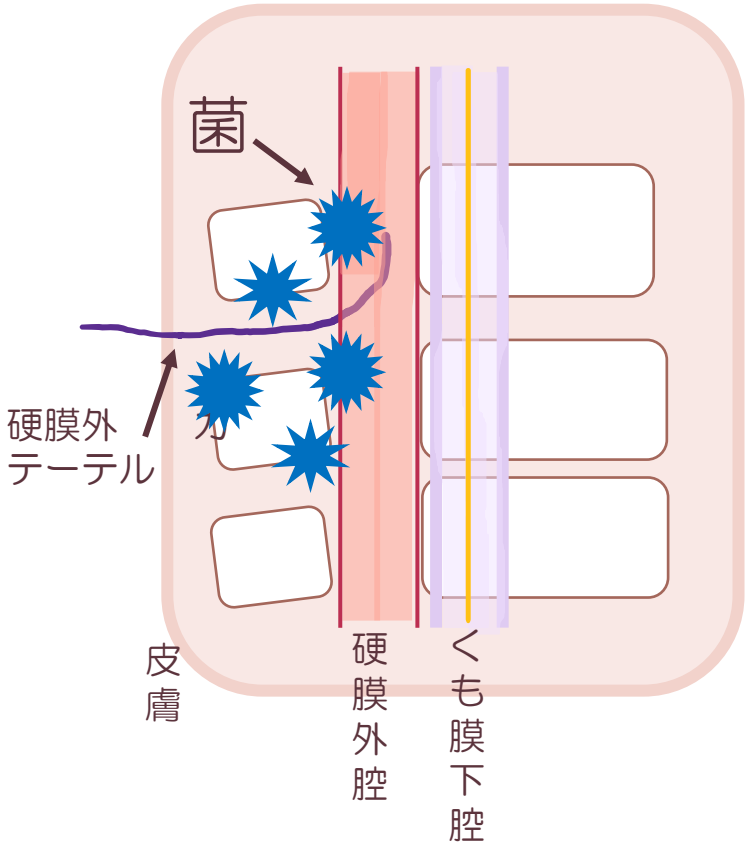
- 舌・口唇の痺れ
- 金属様の味覚
- 多弁・呂律困難・興奮
- 耳鳴り
- 視力・聴力障害
- 母体の痙攣
- 心停止

→ 早期発見
早期処置

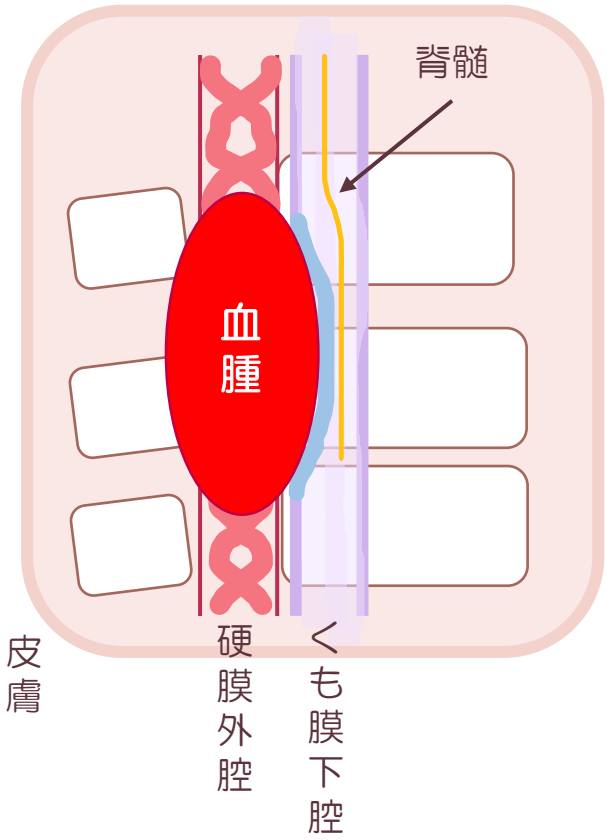


無痛分娩のデメリット・トラブル

感染
（0.0002~0.0015%）



血腫
（0.00021~0.0005%）



無痛分娩中の過ごし方

安静

導尿

絶飲食

当院での無痛分娩対象者

- 無痛分娩の禁忌事項に該当しない
- 講習を受講し、無痛分娩について理解いただいた希望者
- 毎週1名先着順；キャンセル待ちあり
- 原則月曜日入院

＊入院する月曜日に妊娠39週以上であること

お引き受けする妊婦さんの条件の緩和、予約枠拡充に努めてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします

無痛分娩の流れ

①無痛分娩教室受講
無痛分娩の流れや
メリット、デメリット、
料金などの
説明を行います

②術前検査
（自費）
（37週頃）
診察や採血など

③予定入院
（月曜日）
（39週以降）
予め入院日を決めて
入院して頂きます
採血・頸管拡張など
を行います

④硬膜外カテーテル
留置
（火曜日）
火曜日の午前中に
行うことが多い

⑤分娩
お産の進み具合や
痛みに応じて
鎮痛薬を投与します

無痛分娩の流れ（入院日/月曜日）

✓午前９時に８階東病棟に入院していただきます

✓胎児心拍陣痛モニタリングで赤ちゃんの健康状態を確認します

✓採血をして血小板の低下がないか確認します

✓必要があれば頸管拡張術を行います

無痛分娩の流れ（入院2日目/火曜日）

✓午前7時頃に分娩室に移動
　胎児心拍陣痛モニタリングで赤ちゃんの健康状態を確認します

✓午前中に硬膜外麻酔の管を挿入します

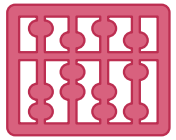
✓陣痛促進剤を開始します

★お産の進行が見られない場合は、一旦中断し、
　翌日に仕切り直しとなります

いつから無痛分娩を開始するか

✓妊婦さんが鎮痛を希望した時点

✓陣痛がおよそ5分毎の頻度で規則的に発来し、
子宮口がある程度（5cmぐらい）開大したこと
を確認してから開始するのが一般的

料金について 

- 硬膜外麻酔無痛分娩費用;10万円（＋通常の分娩費用）

- 硬膜外麻酔挿入の手技料；3万円（＋通常の分娩費用）

  硬膜外麻酔の管を挿入後麻酔を施行することがなかった場合

  （例）お産の進みが早く麻酔薬が間に合わなかった場合など

＊無痛分娩の効果は個人差があります

効果がないと感じられた場合でも返金には応じられません

最後に

- 今日のお話はいかがだったでしょうか？
- すぐにはわからないこともあるかと思います
- ご質問・お問い合わせは、**受診時に**
  スタッフまたは担当医へお願いします